

第7回 富山県河川整備計画検討委員会における主な意見と対応

平成16年11月26日(金)14:00～15:30

項目	発言者	意見	内容	対応
<b>&lt;中川水系河川整備計画&gt;</b>				
治水	A委員	土砂の流下状況について	現川の土砂の流下状況はどうなっているか。	現川の土砂の混入はほとんど無い。水源が葦輪頭首工によるかんがい目的の取水であるため、土砂混入は少ないものと思われる。
	A委員	計画断面について	なぜJR横断区間はボックスの断面が小さいのか。	沖田川放水路の河床勾配は、下流側の都市計画道路地下に入る区間は1/550、それより上流のJR横断部を含む区間が1/300であり、JR横断部は、下流よりも勾配が急であるため、断面が小さくて済む。
	B委員	整備期間について	計画対象が20年間というのは長いのでは。早期に治水対策が必要とるのであれば、もっと短期間で事業完了すべきでは。	総事業費は、約30億円と見込んでおり、概ね20年間程度かかるものと考えているが、早期完成に努めてまいりたい。
環境	C委員 D会長	PRについて	今回のケースの様に市街地及び行田公園等の現在の環境の保全も考えて河川改修を行うということをもっとPRすべきでは。	他の例も含めて、周辺環境に配慮したケースのPRに一層努めてまいりたい。
治水	E委員	流出計算について	合理式の流出係数はどのように考えているのか。	現地の土地利用を踏まえ、土地利用区分(水田、市街地等)毎の流出係数を面積按分し、流域区分毎の流出係数を決定した。